

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立宇和島東高等学校津島分校

教育方針	人格の完成を目指し、国家及び社会の有為な形成者として、文化の創造と発展に寄与する人間を育成する。		重点目標	確かな学力と豊かな心を育て、社会に役立つ力を身に付けさせる教育の推進	
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	習熟度別授業やチームティーチング、支援員との連携により、生徒が主体的・積極的に取り組める授業を実践し、授業満足度が90%以上となることを目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:60%未満	B	生徒にとって「授業がよく分かる」の項目が93%で授業満足度は高いといえる。「生徒は授業に熱心に取り組んでいる。」の項目も昨年度の81%から91%に上昇している。	今後は支援員の確保が難しくなると思われ、別教科の補助に付くなど、今後も基礎学力の定着を目指し、生徒がより興味をもてるように工夫するなどして、熱心に取り組む生徒が90%以上となることを目指す。
	読書指導の充実	授業やホームルーム活動などでの図書館利用回数や、図書に触れる機会を増やす。また、蔵書に関する情報提供を積極的にを行い、利用しやすい図書の選定と購入に努める。図書貸出冊数一人当たり年間3冊以上を目指す。 A:3冊以上 B:2.9～2.5冊 C:2.4～2冊 D:1.9～1冊 E:1冊未満	D	授業での図書館利用回数は11回で昨年度よりも利用回数は増えている。図書貸出し冊数は現時点で1.2冊である。学年別でみれば、3年生はよく図書を借りている。	引き続き、図書館利用を促していきたい。また、授業での利用だけでなく、授業の中での図書紹介など、生徒が読書に興味を持つような工夫をしていきたい。
	自主学習の充実	ICT機器等を利用するなど適切な日々の課題を与え、継続した学習習慣を身に付けさせることで、一日120分以上の自主学習時間を確保させる。 A:120分以上 B:119～100分 C:99～80分 D:79～60分 E:60分未満	C	家庭学習時間調査では考査発表前が44分、発表中は112分であった。1人1台端末など、積極的にICT機器を活用するなどしているが、なかなか定着しない。	新教育課程の観点別評価において、定期考査だけでなく、日々の課題と確認テストなどの頻度を増やし、家庭学習が成績につながっていくような工夫し、継続した学習習慣を身に付けさせる。
	アクティブ・ラーニングの充実	ICT機器を活用し主体性を重視した学習活動を更に増やすとともに、本校・分校遠隔授業や校内においても教科横断型授業を実施し、学習意欲が高まるよう授業改善を図る。	B	夏季休業中の職員ICT研修では、受講内容を選択できるようにし、苦手克服に努めた。生徒一人一台端末の活用や電子黒板の活用など各教科において積極的に行われている。	引き続き、教科横断型授業の実施やその参観により、ICT機器の活用方法についても相互に刺激をしあうことで、活用方法の相互研修につなげたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	早寝早起きなど基本的な生活習慣の確立や不登校生徒への支援に努め、遅刻・早退を減らし、全校での出席率97%以上を目指す。 A:97%以上 B:96～93% C:92～89% D:88～85% E:85%未満	B	出席率は、昨年度から低下して、95%であった。また、生徒の生活習慣の変化によって、遅刻して登校する生徒も増加している。	望ましい学校生活を送る基盤として、基本的な生活習慣の重要性を再認識させる。
	規範意識の育成	自律心を育成することにより、規範意識に基づいた行動様式を定着させ、3年連続の問題行動0件を目指す。	C	いじめの定義の理解が進化したことにより、いじめを含む問題行動が4件となった。関係者の協力により、そのほとんどは落ち着いた状況である。	いじめについては、今後とも積極的な認知によって、早期対応につなげる。また、複雑化・多様化した生徒に対応した規範意識の育成を図る。
	特別活動の活性化	部活動・学校行事・委員会活動・本校との交流行事等において、自主的、実践的な態度を育成し、生徒の充実度90%以上になることを目指す。 A:90%以上 B:89～85% C:84～80% D:79～75% E:75%未満	A	本校との部活動連携も2年目を迎え、主力選手として好成績をおさめる生徒も現れてきた。学校行事や部活動、委員会活動の生徒の充実度は、90%を達成することができた。	連携バスに乗車する生徒数の増加が予想されるので、一層スムーズな運営を図りたい。また、学校行事や委員会活動に意欲的に取り組む生徒を育成する。
	交通安全意識の高揚	命を守る観点から、交通法規・交通マナーを遵守し、交通事故0件を目指す。また、「サイクリング事業」において、多くの生徒にサイクリングの楽しさを体感させ、郷土の魅力を発見する機会とする。	A	交通事故0件を達成することができた。また、放課後のサイクリングを通して、心身の健康増進を図るとともに、地域の魅力を再発見することができた。	自転車の安全走行に加え、自転車の点検整備にも取り組み、自らの命は自ら守るという姿勢を育みたい。
人権教育	人権委員会活動の充実	年間6回の人権デーを始め、他校人権委員会や地域機関、中学校との連携を積極的に図り、主体的な活動を実践することで人権委員の学びの深化を目指す。 A:予定以上に実施 B:全て実施 C:5～8回 D:1～4回 E:0回	A	校内での活動はもちろん、津島中学校、特別支援学校での出前授業や県外研修、アンネのバラの引継ぎ等、校外と多くの連携を図ることができ、大きな学びがあった。	2年ぶりに再開した行事も多く、充実した活動ができたが生徒の負担も大きくなっている。他の行事や活動とのバランスをとりつつ、無理のない学びを継続していきたい。
	充実した人権教育の実施	人権・同和教育の意識調査1回、人権・同和教育ホームルーム活動4回、人権・同和教育講演会1回、岩松福祉会館での報告1回、の実施を目指す。 A:予定以上に実施 B:全て実施 C:4～6回 D:1～3回 E:0回	B	全て予定通り実施できた。講演会は本校生徒に合った内容で意義があった。福祉会館でも2年ぶりに参加した県外研修の報告を行うことができた。	統合化に向けた行事等の精選で、次年度より回数が減るものもあるが、質を大事にしながら実施していきたい。

進路指導	情報モラル教育の充実	人権啓発ムービーの教材化を図り、1年生を対象としたスマートフォンの利用法に関する授業を実践する。また、全校生徒に対してもインターネットの適切な利用法を理解させ、引き続きSNS利用等によるトラブルの件を目指す。 A:0件 B:1～2件 C:3～4件 D:5～8件 E:9件以上	A	自校の人権啓発ムービーを教材化し、1年生、津島中学校、特別支援学校で授業実践を行った。SNSによる大きなトラブルもなかったが、今後も定期的な啓発を行っていききたい。	表面化していないトラブルもある可能性は高い。日頃から生徒の様子を観察しながら、家庭との連携も図り、未然防止に引き続き務めていきたい。
	キャリア教育の推進	前年度の地域課題解決学習を更に深めた取組や地域貢献を通して、「総合的な探究の時間」の成果をまとめ、各班のコンテストへの参加率80%以上を目指す。 A:80%以上 B:79～70% C:69～60% D:59～50% E:50%未満	B	3年生の取組において、地域と協力してアコヤガイの貝殻再利用を考えるなど、成果を得ることができた。	1・2年生も現在の取組を継続し、地域課題の学習や地域への貢献、校外への研究成果の発信もしていきたい。また、3年生の研究を引き継ぎ、次は産業化ができないかを考えていきたい。
	検定資格取得指導の充実	資格取得を通して得られる達成感や自信を学習活動や進路実現に役立てられるよう、1年生から啓発をして、授業や個別指導等の充実を図る	B	商業科・国語科を中心にきめ細かく指導・対策を行い、一定の成果を得ることができた。	より積極的に個別に声をかけたり、資格対策の個別対応をすることで受検者を増やしていきたい。
学校経営	個に応じた進路指導の充実	生徒や保護者との面談や教科指導を充実させ、一人一人の適性に応じたきめ細かい進路指導を実践し、決定進路満足度100%を目指す。 A: 100% B: 99～90% C: 89～80% D: 79～70% E: 70%未満	A	試験対策を多くの教員が携わって取り組んだ結果、3年生全員第一希望の進路先に合格することができた。	来年度は3年生の人数が多いが、今年度同様の取組を行い全員第一希望の進路先への合格を実現させたい。
	学校安全体制の強化	危機管理マニュアルの見直し、地域との合同避難訓練の実施、交通安全指導の強化、校内防災体制の改善や防災意識の高揚を図り、災害発生時の協力体制を強化する。	B	地域との防災訓練は計画的に実施できた。津波速度体験や防災食の試食など新しい取り組みもでき、防災意識の向上に努めた	来年時は高田地区との合同防災訓練が実施される。災害発生時の協力体制を強化していく。
	地域との結びつきを大切にし、地域について学ぶ学習の充実	地域行事の積極的な参加、地域と連携して学習する機会を年間30回以上設定し、生徒の社会性や自己肯定感を高めたり、地域との結び付きを強化したりする。 A:30回以上 B:20～29回 C:10～19回 D:5～9回 E:4回未満	A	宇和島市、各種イベント、公共施設、NPO法人等との交流を70回以上実施し、地域の活性化に貢献できるとともに生徒の人間力や郷土愛の育成につながった。	今後も連携する場面を多く設け地域について学ぶとともに、情報収集力、整理・分析力、表現力の更なる向上を図る。また、地域貢献を通して、生徒の社会性や自己肯定感を高める。
業務改善	広報活動の充実による開かれた学校づくり	地元中学校への分校生訪問や「津高タイムズ」、ホームページ、YouTubeチャンネル、報道機関へのプレスリリース送信等により積極的な情報発信を図る。	B	「津高タイムズ」やホームページのログアップ、プレスリリース、体験入学、学校説明会の実施により幅広く広報し、学校の魅力紹介に努めた。	今年度が最後の入試になるが、今後も引き続き情報発信を行い、地元の中学校、小学校とも連携することで広報活動の幅を広げていきたい。
	適切な勤務時間	職員との3回の面談や会議等の縮小を通して、できるだけ勤務時間内で業務を遂行してもらい、教職員の勤務時間を守る。また、日ごろから声掛けを小まめに行い、職員の意識理解に努めるとともに、一月に45時間を超える職員には面談を行う。	B	12月までの勤務時間外在在等時間の月平均は一人当たり25時間という結果で、概ね適切であったが、個人的な偏りが大きい。テレワークを活用する職員も増えてきた。	今後も勤務時間内での業務の遂行を呼びかける。特に一月に45時間を超える職員には、面談や声掛けを強く行い、業務の効率化の工夫をしていきたい。
	職場環境の整備	挨拶や声掛け等を行い普段から相談しやすい環境を作っていくとともに、面接や事業・制度に関する情報提供等を行い、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	体調不良等による遅刻・早退・欠勤が目立つ者や、言動や表情から普段と違う心配な点が見られる者もなく、心身の状態は概ね良好であると思われる。	引き続き、普段から挨拶や声掛けをしっかりと行い、言動や表情等のささいな変化を見逃さないよう関わりを持っていきたい。また、物理的な職場の環境整備にも努めていきたい。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。